

第2部 公民館学級

第1章 コース活動

6月6日	かいきゅうしき <small>じこしょうかい</small> 開級式、自己紹介
6月20日	わかそよグループ <small>かつどう</small> 活動
7月4日	わかそよグループ <small>かつどう</small> 活動
7月18日	わかそよグループ <small>かつどう</small> 活動
8月1日	わかそよグループ <small>かつどう</small> 活動・撮影リハーサル
8月8日	わかば <small>かぜ</small> <small>かーもにーこんさーと</small> 2021 <small>さつえいほんばん</small> 若葉とそよ風のハーモニーコンサート2021 撮影本番
9月19日	ごこ <small>かつどう</small> Pmからのコース活動ものづくりコースとオンライン <small>ごうどう</small> 合同、 <small>がっきゅうそんぐ</small> <small>うた</small> 学級ソングを歌う <small>はなしあ</small> 話し合い、
10月17日	ごこ <small>かつどう</small> Pmからのコース活動ミュージカルコースと合同 <small>ごうどう</small> <small>はなしあ</small> 話し合い
11月7日	<small>ごぜん</small> <small>あ</small> <small>かつどう</small> Am全体話し合い活動 <small>ごこ</small> <small>かつどう</small> pmコース活動 <small>はなしあ</small> 話し合い
11月21日	<small>ごぜん</small> <small>あ</small> Amつどい <small>ごこ</small> <small>せいさく</small> Pm 製作 <small>めっせーじ</small> メッセージづくり
12月5日	<small>ごぜん</small> <small>あ</small> <small>がっき</small> Am楽器コースと合同の活動。クリスマス会準備、話し合い (近況報告) <small>うた</small> <small>うた</small> 歌を歌う。 <small>ごこ</small> <small>おおいし</small> Pmつどい (大石さんをしのぶ) <small>くりすますかい</small> <small>いさんか</small> クリスマス会参加
12月19日	<small>ごぜん</small> <small>はなしあ</small> Am話し合い、 <small>せいさくどし</small> <small>がじょうづく</small> 製作年賀状作り <small>ごこ</small> <small>せいさくめっせーじ</small> Pm 製作メッセージづくり <small>せいこ</small> <small>はつびようかい</small> 成果発表会についての <small>はなしあ</small> 話し合い。
1月16日	<small>ごこ</small> <small>かつどう</small> Pmからの活動 <small>しょうがいがくしゅうせん</small> <small>たーまつ</small> <small>はなしあ</small> <small>うた</small> <small>うた</small> 生涯学習センター祭りの話し合い、歌を歌う <small>めいさんか</small> 4名参加
2月6日	<small>ごこ</small> <small>かつどう</small> Pmからの活動 <small>しょうがいがくしゅうせん</small> <small>たーまつ</small> <small>はなしあ</small> <small>どうが</small> 生涯学習センター祭りの話し合い、動画づくり <small>めいさんか</small> 4名参加
2月20日	<small>ごこ</small> <small>かつどう</small> Pmからの活動 <small>はつびようかい</small> <small>はなしあ</small> <small>おおいし</small> 発表会話し合い、大石さんについての話し合い <small>めいさんか</small> 3名参加
3月6日	<small>ごこ</small> <small>かつどう</small> Pmからの活動 <small>はつびようかい</small> <small>はなしあ</small> <small>せいこ</small> <small>はつびようかい</small> 発表会話し合い 成果発表会

1. 集団の特徴とねらい

男性3名、女性9名の計12人のメンバーが所属しています。学級活動内で若葉とそよ風のハーモニーコンサート（わかそよ）に向けた取り組みを行いたいという思いから生まれたコースです。

新型コロナウイルスの影響もあり、コース変更を行わなかったため昨年度からメンバーが変わることはありませんでした。

活動の内容は、参加人数が少ない中、どのように学級活動を進めるかについての話し合いや、生涯学習センターまつりで発表する動画の考案・作成を行いました。また、活動の中で作文を作成し、思いを共有する時間も多かったです。新型コロナウイルスの影響で学級への参加が難しい青年に向けてメッセージを送るという活動もありました。

2. 活動の評価

(1) わかそよに向けて

今年度行われた「わかそよ 2020」に向けて新型コロナウイルスの感染拡大に伴う制約がある中、限られた時間で活動しました。開級式後の学級活動の時間を使い、わかそよで伝えたいことを決め、グループに分かれて発表練習を行いました。公民館学級だけでなく、土曜学級やとびたつ会のメンバーとの連携を取りながら、本番の撮影を迎えることができました。

(2) 活動内での話し合い

コースでの活動が再開してからはクリスマス会に向けての話し合いが活発に行われました。大石さんのことを話したいという提案があ

り、まずはコース内で大石さんを知っている青年が率先して話を進めました。「私たちのことを真剣に考えてくれた」「みんなと向き合う姿勢が熱かった」といった話を聞くことができました。

また、コロナの影響によりグループホームや職場での制約が多くなり、もやもやした気持ちを抱えている青年も多く、その気持ちを共有するという場面もありました。「コロナが広まってみんなと活動するのが当たり前でなくなってしまう寂しい、早くみんなと一緒に活動したい」「みんなと集まる当たりの時間がなくなってしまう寂しい」「職場や学級の会えていない仲間を思っ

(3) 生涯学習センターまつりに向けて

動画をWEB上にアップするという方法で生涯学習センターまつりが開催されることになり、この学級活動を多くの人に見て、知ってもらえるような内容を考えることにしました。「学級の思い出を話したり、映したりしたい」「学級の紹介は入れたい」「学級ソングがあれば、どんな発表でもいいものになる」「動画でも（歌についている）振付けがつけられるとお客様に伝わりやすくていいね」と活発に意見が出てきました。動画撮影の際には役割分担をし、みんなで思いを伝えることのできる動画が完成しました。

(4) 欠席している青年に向けて

活動への欠席が続いている青年も多く、少しでも学級の様子を伝えたいという思いや、学級で

待っていることを伝えたいという声が多く上がりました。

まずは色紙の作成を行いました。色紙の選定から始まり、写真を張りたいというアイデアから参加している青年の集合写真を撮影し貼り付け、メッセージを添えて完成させることができました。各々の思いを伝えるためにイラストを加えたり、折り紙やミサンガを作成する青年もいました。

続いて季節の挨拶もしたいという意見が挙がり、年末の活動では年賀状も作成しました。この活動はコンサートコースだけでなく他のコースも巻き込んで、コースを超えて学級に來れていない青年を思って作成することとなりました。学級に來れないという経験をしている青年は、今も來れていない青年の辛さをとても理解しており、メッセージを送るという手段で抱えている思いを共有することができました。

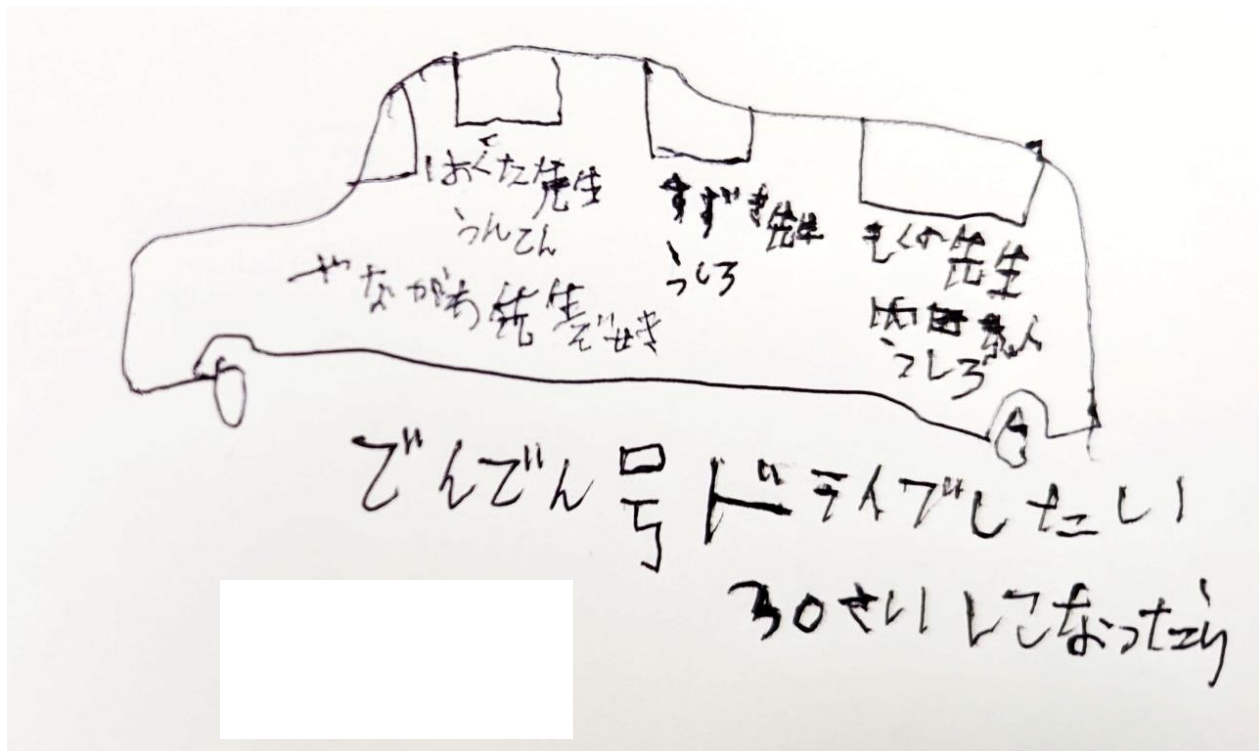
(5) 成果発表会に向けて

成果発表会でどのようなことを発表したいかということについて、「大石さんのことについてこれまでちゃんと話す機会がないまま活動しているのでもう少し話したい」という意見が出ました。そこで、作文を読み、大石さんが作成に関わっている学級ソングを歌うということになりました。作文の一部を紹介します。「大石さんはいつもみんなのことを気にしていて、私はそのことがとてもうれしかったのです」「私たちのことを一人の人間として大切に間わってくれるということだと思っています」「私がこうやって今でも学級にきて活動ができているのは大石さんのそういった学級をつくるにあたっての思いだとか、そういう

ものがあつたからだと思ひます」また、歌は話し合ひの結果とびたつ会のテーマに決まりました。

ほかにももう1曲歌ひたいという意見が出たため、さらに話し合ひを進め、みんなのいい居場所を歌うことに決まりました。そして以前作成していた作文の発表も行ひたいという意見もあがり、2つの作文を発表することも決まりました。

本番は、参加人数が少なく、作文発表をする人が練習とは違ふといったこともありましたが、みんなの思いを発表に繋げようという前向きな言葉を掛け合つて、少ない練習時間の中で流れを確認しました。うたや演奏のサポートに楽器音楽コースの青年が入り、無事に発表を終えることができました。



6月20日	わかそよグループ練習
7月4日	わかそよグループ練習
7月18日	わかそよグループ練習
8月1日	わかそよグループ練習、撮影リハーサル
8月8日	わかばとそよ風のハーモニーコンサート 2021 撮影本番
9月19日	PM コース活動 ・今後の活動形態についての話し合い
10月17日	PM コース活動 ・くらしコースと合同の活動 ・青年学級という場についての共有 ・大石さんと青年学級のこれまでの歩みについて
11月7日	AM 健康福祉会館にて活動 ・センター祭りについて話し合い PM コース活動 ・クリスマス会についての話し合い ・成果発表会に向けての話し合い
11月21日	AM つどい、コース活動 ・クリスマス会について PM コース活動 クリスマス会の内容、クリスマスプレゼントについて ・成果発表会について
12月5日	AM コース活動 ・クリスマス会準備 PM クリスマス会
12月19日	AM コース活動 コンサートコースと合同 ・学級に來られていない人に向けて年賀状の作成 PM コース活動・成果発表会について
1月16日	PM 新年のつどい、コース活動 ・成果発表会について(どのようなメッセージを伝えるのかについて)
2月6日	PM コース活動・成果発表会に向けて(発表内容・方法の確定、歌の練習)
2月20日	PM コース活動・成果発表会について (発表する作文の練習、歌の練習、きづなの絵の作成)
3月6日	成果発表会

1. 集団の特徴

楽器コースは男性11名、女性3名の計14名で公民館学級全6コースの中で最も多い人数で構成されています。また、コロナウィルスの影響により、2019年度から同一メンバーで活動を行って来ました。

コンサートコースが誕生し、楽器に対して強い要求を持つメンバーがそちらに移り、歌うことを求めるメンバーが多くを占めるようになりました。コミュニケーションの側面では、独力で話すことが可能なメンバーと筆談を用いて話すメンバーがいます。

話し合いの際には、全員で言葉を通じた話し合いが行われ、独力で話すことが可能なメンバーもより深い意見や考えを述べるために筆談を用いて意見を伝えています。積極的かつ細やかな話し合いを基に、話し合いをリードするメンバーが中心となりながら、活動が進められています。

2. 活動のねらい

- ・自らの力で活動を進める。
- ・お互いの気持ちや、仕事、日々の生活について知り、共有する。
- ・話し合いをもとに作文や詩を書いたり、歌づくりをしたりする。
- ・歌うことや楽器を演奏することを通して自分を表現する。

3. 活動の様子及び評価

(1) コロナウィルスの影響のため活動に参加できない仲間について思いを寄せる

昨年度同様、コロナウィルスの影響で学級

活動に参加できない仲間がいる中で、そのような仲間たちとどのようにつながりをつくるのかというところが今年度の活動では大きなテーマとなりました。

会えない状況が長らく続く中で、学級に参加できる人と参加できない人のつながりをたえさせないということは非常にむずかしいことですが、メンバーたちの提案により、ニュースを通しメッセージを送ったり、年賀状を作成し送ったりすることを行いました。「青年学級は変わらず活動を続け、仲間たちを待っている」という思いを届けることができ、参加ができない仲間たちのほげみにもなったのではないかと思います。

(2) 家族への思い

今年度の活動では、今後の活動をどのようにしていくのかという点について話し合いをする場面が多くありましたが、家族について語る時間もゆっくりと取ることができました。その中で親孝行という言葉が出たことがあります。長らくご家族が病気で入院されているメンバーから、「家で看病をするととても喜んでくれる。そばにいただけで喜んでもらえるのはうれしく、こんなかたちでも親孝行ができるのはよかった」という発言がありました。日々の生活を送る中で家族の存在はかけがえのないものです。自分のことを誰よりもわかってくれている親に対して何ができるのかと考えることの大切さを改めて感じる時間になりました。親孝行と聞くと何か大きなことや特別なことをすることがよいのではないのかという考えになることが多いと思います。しかし、特別な何かをすることよりも、普段の生活の中ですべて大切な時間を過ごすことこそが何よりもすてきな

親孝行なのだということに気づくきっかけとなる言葉、話し合いとなりました。来年度の活動も、暮らしや家族のことを話す時間をつくり、それぞれの思いが共有できる場を設定していきたいです。

(3) 自分の人生の主人公として生きる

10月に青年学級の活動に御尽力された元職員の大石さんがお亡くなりになり、大石さんとの思い出を語る時間をつくりました。

「大石さんはとてもすてきな人だった。今この状況になってどうして青年学級ができたのか、『自分の人生の主人公として生きていく』のはどういうことなのか、ぼくたちが何を大切に活動していくのかということを考えて続けていきたいです。」

「青年学級という場所は色々な人たちの思いで、できあがっている場所。自分の人生を自分が主人公になって生きるということを大切にしている場所ということをはじめて伝えてくれた。」

「今ぼくは大事なことを再確認することができました。ぼくたちが自分らしく自分の人生を生きていくにはどんなことができるのか、さらに話し合っていきたいです。」

思い出を振り返っていく中で、青年学級という場の意味について、発言がありました。青年学級の活動では、「自治」「生活づくり」「文化の創造」の3つを柱にしていますが、これらを行う上で大切にしていかなければならないのが「自分の人生を自分らしく生きること」であることを共有することができました。

4. 評価および課題と展望

前年度、前々年度の活動において、歌や物語ができていたため、折に触れて、その歌や物語をふり返ることができました。参加者や活動、時間に大きな制限がありながらも、活動の縦糸を保つことができ、成果発表会に向けても流れを作ることができたのではないのでしょうか。

ただ、創作されたコロナ大王の物語は、現実のコロナの深刻さを考えると、物語としては、発表にふさわしいとは言えないということになったのが、残念でした。

活動については、長期的な見通しをもち、じっくり考え活動内容について提案をするメンバーがいたため、比較的スムーズに活動することができました。

昨年度と同様にコロナウィルの状況に左右され、思うような活動をするのができないことも多く、もどかしい思いをすることもありましたが、少人数ながらもじっくりと話し合いをする時間を持つことができたのはよかった点としてあげられます。行事の際にも、常にコロナウィルスの影響から活動に参加することができない人たちのことを考えながら活動を行いました。このような点から、みんながどのような活動をしていきたいのか、何を大切にすべきなのかということをはじめて共有しながら話し合いを進めることができました。

課題としては、楽器を演奏したいという青年もいましたがなかなか機会を作れなかったことです。楽器にふれたり演奏する機会をつくり、学級ソングを歌う際に担当者の伴奏だけでなく、メンバーの楽器演奏を取り入れられるようにするなどの工夫をする必要があります。



公民館学級 **ものづくり さくらコース**

かつどう **活動の流れ**

がつか 6月6日	かいきゅうしき 開級式
がつにち 9月19日	コンサートコースと合同 <small>ごうどう</small> 話し合い <small>はなあ</small>
がつにち 10月17日	けんこうコースと合同 <small>ごうどう</small> ボッチャ
がつか 11月7日	AM: <small>ごぜん</small> 健康福祉会館つどい <small>けんこうふくしかいかん</small> PM: <small>ごこ</small> 芹ヶ谷公園にて昼食 <small>ちゅうしょく</small> お絵かき <small>え</small>
がつにち 11月21日	クリスマスツリー飾り作成 <small>かざ</small> <small>さくせい</small>
がつか 12月5日	AM: <small>ごぜん</small> クリスマスツリー飾り付け <small>かざ</small> <small>つけ</small> PM: <small>ごこ</small> クリスマス会 <small>かい</small>
がつにち 12月19日	貼り絵 <small>はりえ</small>
がつにち 1月16日	話し合い <small>はなあ</small> 年末年始の思い出 <small>ねんまつねんし</small> <small>おもいで</small> 新年の目標 <small>しんねん</small> <small>もくひょう</small>
がつか 2月6日	話し合い <small>はなあ</small>
がつか 2月20日	貼り絵 <small>はりえ</small>
がつか 3月6日	せいかはつひょうかい 成果発表会

1. 集団の特徴

男性 7 名、女性 1 名 計 8 名

昨年度から変わらないメンバー構成。

ものづくりコース歴が長いベテランの青年が在籍し、トイレや食事の介助を必要とする青年は居ないが、歩くペースやものづくりのペースは、それぞれ異なるため、互いのペースを考えて活動を行った。

2. 活動のねらい

(1) 仕事や日常生活での出来事や思いを共有し、創作活動へつなげる。

(2) 個性を大切にし、それぞれの表現方法を尊重する。

(3) 一年を通じて仲間との創作活動を共有し、ものづくりの楽しさを共有する。

3. 活動の様子と評価

10月17日

健康コースと合同で活動。ボッチャ体験実施。

初めての挑戦だったが、みな上手にボールを投げる事が出来ていた。

パラリンピックもあったことから、体験した青年からは「体験出来て良かった」と感想を聞けた。

11月7日

久しぶりに一日の活動を行った。

午前中、健康福祉会館でつどいを行い、健康

コースとくらしコースと共に芹ヶ谷公園で昼食。紅葉を見ることもでき、自然を感じた。

午後のコース活動は、クリスマス会の話し合いと今後の活動に関しての話し合い。残りの時間

で絵を描いた。話し合いの中で、青年から「貼り絵をやりたい」、「外出したい。子どもの国に行きたい。」という意見が出た。

11月21日

クリスマスツリーの飾りづくり実施。

クリスマスに関する絵を描いた。

12月5日

クリスマス会に向け、クリスマスツリーの飾り付け実施。11月21日の活動で描いた絵に穴を開け、リボンを通した。また、クリスマス会で行うクイズを準備。最近のエピソードを元にクイズを作成したため、青年の近況を聞くことができた。

12月19日

クリスマス会の振り返り、及び貼り絵実施。

細かい作業をうまく行っていた。

この日の話し合いでも、子どもの国や芹ヶ谷公園に行きたいという意見がだされた。

1月16日

年末年始の思い出を語り合い、今年の目標とやりたいことを紙に書いた。

青年たちは「子どもの国に行きたい。お土産を買いたい。」「31年目にして早くもとにもどしたいと思います。」「コロナにうつらないように気をつけます。」という目標を掲げた。

2月6日

コロナの影響を受け、3人だけの活動。

成果発表の話し合い実施。

今年度の活動の振り返り実施。

できなかったことや、やりたいことを、話し合った。

青年達からは、「調理やお泊まりができなかった。」「博物館に行きたい。大池沢でキャンプ

アイヤーをしたい。」という話がだされた。

2月20日

劇ミュージカルコースと合同で貼り絵を実施。

<評価>

少ないコース活動の中ではあったが、クリスマスや年末年始の思い出など、季節を意識した絵を描くことができた。また、青年が描く絵は、SNさんは実際に外出した際に乗った電車とその背景、ITさんは花の家の送迎バス、OMさんはご家族、THさんはミッキーなどのキャラクター、NMさんは自画像や芹ヶ谷公園の風景などなど、自身の好きや日常の思い出を描き残している方が多い。好き、嬉しい、楽しい、大切、などの気持ちを絵に投影し、証として残しているように感じてならない。

4. 課題と展望

コロナ禍での学級活動、社会情勢の影響などもあり、毎回参加人数の見通しが立てづらかったことから、その為、活動直前で活動内容を考える日が続いた。話し合いをした後、同じ画材で絵を描く活動になることが多かった。もちろん、青年から絵が描きたいという意見も出てはいる。せっかく学級に参加しているのであれば、家庭ではなかなかとりくまないようなものづくりも行いたい。

絵は絵であっても、画材や画法の工夫は可能である。加え、見通しが立たないなかではあるが、ある程度時間をかける作品作りができればまた違ったのではないかと。ただ、担当者としての準備も重要であり、そこが課題である。

最終決定は青年にあるが、アイデア出しの段階で提案することはできたはずである。

今後は、コンクールに参加や、個展をひらくなど、青年達の作品の発表の場を増やすことにより、活動の目標を持つ事ができると感じた。

また、外出や調理の要望も良く出されている。この状況だからこそその希望であるのではないかと伺える。コロナ前の外出や調理の経験を楽しそうに話す青年が印象的であった。この状況が改善されれば、そのような活動もしていきたい。

日々の活動同様、ある程度の見通しやアイデアのストックを増やしておく必要があると感じた。バラエティに富んだ活動が行えなかったこともあるが、青年ひとりひとりの得意不得意をいまだ把握できていないのも課題である。はさみやカッター、ひもを通すなどの細かい作業、火の扱い、などなどである。それらに伴い、作品づくりのペースも異なるため、工夫が必要である。

意見の聞き出しに関しては、担当者側の力量不足もあり、なかなか聞き出すことができていないと痛感する。自分の声で伝えられる青年が多いとはいえ、全てを酌み取ることはできず、聞き方の工夫を模索していきたい。



こうみんかんがっきゅう
公民館学級 こーす 暮らし ハッピーハッピーコース

かつどう なが
活動の流れ

がつ か 6月6日	かいきゅうしき 開級式
がつ にち 6月20日	
がつ か 7月4日	わかば <small>かぜ</small> 若葉とそよ風のハーモニーコンサートに向けた練習 <small>む れんしゅう</small>
がつ にち 7月18日	わかば <small>かぜ</small> 若葉とそよ風のハーモニーコンサートに向けた練習 <small>む れんしゅう</small>
がつ か 9月5日	
がつ にち 9月19日	げき <small>ごうどう</small> 劇ミュージカルコースと合同で活動、 <small>こんご</small> 今後の学級活動について話し合い <small>はな あ</small>
がつ か 10月17日	がっき <small>ごうどう</small> 楽器コースと合同で活動、学級の大切さとコロナ禍での心の拠り所について <small>はな あ</small> 話す <small>どころ</small>
がつ にち 11月7日	ごぜん <small>けんこうふくしかいかん</small> AM 健康福祉会館にて全体でつどい、 <small>ぜんたい</small> 芹が谷公園で昼食 <small>せり や こうえん</small> 午後 <small>ちゅうしょく</small> PM クリスマス会について話し合い <small>はな あ</small>
がつ にち 11月21日	ものづくりコースと合同で活動、 <small>ごうどう</small> 買い出し、 <small>か</small> メッセージカードについて話し合い <small>だ はな あ</small>
がつ か 12月5日	クリスマス会、 <small>かい</small> メッセージカードの型作り、 <small>かたづく</small> 他コースへメッセージ記入の依頼 <small>た きにゅう</small>
がつ にち 12月19日	ごぜん AM <small>けんとう</small> メッセージカードのレイアウトについて検討する 午後 <small>あつ</small> PM 集まったカードの貼り付け、 <small>こんご</small> 今後の活動について話し合い <small>はな あ</small>
がつ にち 1月16日	けんがくしき <small>む</small> 見学者へ向けて自己紹介、 <small>じ こしょうかい</small> 筆談・ <small>ひつだん</small> 青年学級について語る <small>せいねんがっきゅう</small>
がつ か 2月6日	かつどう <small>ふ</small> 活動の振り返り、 <small>がえ</small> 成果発表会について話し合い <small>せい か はつびょうかい</small>
がつ にち 2月20日	コース発表のやり方や内容の検討 <small>はつびょう</small>
がつ か 3月6日	コース発表原稿の確認・練習、 <small>はつびょうげんこう</small> 成果発表会 <small>かくにん</small> (ホールにて開催) <small>れんしゅう</small> <small>せい か はつびょうかい</small> <small>かいさい</small>

1. 集団の構成・特徴

くらしコースは男性6名、女性1名、合計7名で構成されていましたが、年度途中から新入学級生（女性）が1名加わり、8名となりました。昨年度から引き続き、グループホームで生活している1名がコロナの影響で外出が制限されており、活動の場には来られていません。また、身体の不調により施設で療養中のメンバーが長期で活動を休んでいます。コロナワクチンの普及や感染予防対策が浸透してきたこともあり、昨年度に比べて必要以上に感染を恐れるようなことは少なくなった印象があり、飲食を伴わない時間設定での活動ということも重なって、他メンバーはコンスタントに活動に参加することができています。

所属するメンバーは皆、言葉でのやりとり（意思表示）が可能ですが、昨年度同様、より深い意見や考えを述べるために半数ほどがコミュニケーション手段（筆談）を用いて意見を伝え、活動が進められています。コミュニケーション手段の扱いに関しては、活動内で学級生から発言があったことでコース全体で検討・共有できており、スムーズな話し合いが確立されています。話す言葉と書く言葉、メンバーによって意思表示や思いの発信に際しての手段はそれぞれですが、自身でその時に応じた手段を選択し、発言しています。こうして進められる活動をメンバーは「愛のある活動」「のんびりした時間」「濃い時間」と表現しています。

2. 活動のねらい

- ・仕事やくらし、仲間のことに関する話し合い

や作文を書くことで、自分たちの思いを伝えあい、互いの思いを共有し、そこからより良い生活について考える。

- ・職場やグループホームの見学、調理などの活動を通して、生活の中の楽しさや豊かさを見つめなおす。

- ・自分たちのメッセージを社会に対して発信することで、自信を持って生活していく力を身につける。

3. 活動の様子

(1) 他コースと合同の活動から

コロナ禍での活動ということで、感染状況を鑑みて活動に参加できていない学級生もまだ多くいます。学級に参加できていない学級生のことを思い、所属する場所がなくならないようにと、2019年度からの3年間、コース編成を変えずに活動してきています。その中で今年度は他コースと合同での活動する機会が何度かありました。

① 9月19日

この日の活動は劇ミュージカルコースと合同で行い、「公民館学級のこれからの活動」について話し合いました。

— 気持ち表現できてみんなに見てもらえる作品を作りたい。

— みんなで活動をつくっていくことが大切。

— 絵を描いたり感じたことを表現したりしていく活動をしていきたい。

— コロナの影響でここに来られていない人たちを置いてけぼりにしないようにしたい。

等の意見が出ました。のちの振り返りで、

— みんなと確認をしながら進められたことがとて

も良いことだと感じています。時間はかかるかもしれないませんが、良い活動にするためにはみんなに意見を聞いて確認して行ってほしいと思います。と話す青年がいました。コロナ禍での開催に際し、「制限のある中でどんな活動をしていくのがベストか」「大事にしたい想いは何か」等、全員が自分事として捉え、学級全体で話し合い・共有することができ、今年度の方向性の指針となりました。

②10月17日

この日の活動では楽器コースと合同で活動し、「学級の大切さとコロナ禍での心の拠り所」についての想いが語られました。

—青年学級は私たちの主体性を認めてくれる場所。

—青年学級という場所はたくさんの人たちの想いから成り立っている場所であり、自分の人生を自分が主人公になって生きるということ大切にしている場所。この場所は絶対になくしてはならない。

—コロナの状況は怖いと感じていたが、学級に来て仲間と会えることの大切さを強く感じるようになった。

—コロナ禍でも活動を続けてきたので、「乗り越え続けた」ということを丁寧に作品にして僕たちが大切にしていることを続けていきたい。

先が見えない状況下の中、みんなで話し合い模索しながらも活動を続けてきたことに意味がある、ということを確認できた回でした。

③11月7日

健康福祉会館で行われたつどいの後には、健康コースとともに芹が谷公園に移動し、昼食の弁当を食べました。木々に囲まれた開放的な空間で食べる弁当は格別で、短時間ではありましたが久しぶりの外出を楽しむことができました。

④11月21日

ものづくりコースと合同で活動しました。クリスマス会の時期が近づいてきていたこともあり、ものづくりコースのメンバーは会場を彩るためにクリスマスにちなんだ作品をつくったり絵を描いたりするのはどうか、という話がありました。

くらしコースでは「コロナの影響で学級を欠席している仲間にメッセージカードを贈ろう」という案が出ていたので、そのレイアウトと一緒に考える時間がありました。一人の青年から「ツリーの形に紙を切ってそこにメッセージを書きたい」という意見が出ると、そこから「ベルの形はどうか」「ケーキの形がいい」「トナカイや星の形」等、次々とアイディアが出ました。

その後、必要な材料をリストアップしてみんなで購入しに行き、気持ちのこもったメッセージカードを作るべく、動き出しました。

他コースと合同で行ったこうした活動は、「参加人数が少なくそもそも（コース）活動として成り立つのか」という理由もありましたが、全体で集まることのできない（学級全員で集まる機会が持てなくなった）、少人数での活動で余儀なくされていた、というコロナの影響による要因が招いた活動です。しかし、そうしたコースの垣根を越えた活動の機会によって、各々がも

つ考えや見方に刺激を与えたりコース内だけでなく学級全体に意識を向けた活動を展開したりすることへと繋がったのだと思います。

(2) 仲間を想う活動

昨年度取り組んだメッセージカード作り。コロナの状況が好転することはなく、会えない仲間へ何かできることはないかと考え、「今年度もメッセージを送ろう！」と意見があがりました。—来られていない人が心配。みんなが感じていること、気持ちを伝えたい。—学級に來られていない人に向けてメッセージカードを送りたい。—みんなの想いを届けるのは良いこと。コース以外の人にも書いてもらい、たくさんの言葉が集まればより感動的なカードが仕上がるのでは。等の意見が出され、満場一致で決まりました。

また、前年度と大きく違うところは、「カードのデザインやレイアウトも自分たちで考えたい」「カード作成に必要なものがあれば自分たちで調達したい」という意見が出たことです。こうして前述したもののづくりコースとの合同活動においてのあの話し合いにつながったのです。仲間のことを思いながらより自分たちが介入できるよう提案された意見に、青年学級の仲間を大切に想う気持ちをつよく感じることができました。

また、「書いた人の名前があると誰からのメッセージか確認できて良いと思う」「似顔絵を描くのはどうか」「文字だけでなく、絵でも表現したい」「青年学級の仲間たちへ、とタイトルを書いた方がいいと思う」等、集まったカードを並べながらデザインや細かい配慮にも余念がありませんでした。

た。

コースのメンバーに向けては、下記のメッセージが届けられました。

—コロナが落ち着いたら学級に来てください。飲みに行きましょう。ご飯一緒に行きましょう。

—みんなに会いたいということを一番伝えたい。

まだ、いい時間が過ぎていない人たちがいるのを聞くと心が痛いですが、いい時間が少しでも早く過ごせることを祈っています。この場所で僕たちがずっと待っていますので、その時が来るのを楽しみにしています。

—またみんなでうどんやパンを作りたいです。またみんなで作りの味を一緒に味わいましょう。

—みんなでお話し合っ活動をつくっていますので安心してください。いつでも帰ってきてください。

(3) 一年間を振り返って

一年間を振り返っての感想では、

—コースの仲間のことを考えてメッセージを書けたことが本当にうれしかった。届けられてよかった。

—みんなでのみんなのことを考えて、考えたことが形にできたことやそれを行動に移せたことがとてもうれしかった。コロナの影響でいつもならできていた活動ができなかったりもしましたが、その中でも良い形で活動が進められたのではないかと思います。

—感動的だったのは仲間に向けてカードを作れたことです。みんなのことを考えると、みんなとつながっているような気持ちがしてうれしくなりました。学級を休んでいるみんなにも、みんな

なのことを^{おも}って^{かつどう}活動していることが^{しつかり}伝わった^{おも}と思います。

—活動^{かつどう}をみんな^{いちねん}でつくることのできた一年^だだった^{おも}と思います。さまざまな^{じじょう}事情^がで^が学級^がを休んで^{やす}いる^な仲間の^なことを^{つね}常に^{かんが}考^かえながら^{かつどう}活動^{して}いけた^{こと}は^ととても^{うれ}しい^{こと}でした。^{かんが}考^かえが^あら^わたり^{じじょう}状^か況^がが^あら^わたり^いう^な中^ででしたが、^{とき}その^{とき}時^でみんな^でどう^したら^よい^のか、^いう^ことを^しつ^かり^と確^{かく}認^{にん}しながら^{でき}た^ことが、^よ良^い活^{かつ}動^ど・濃^じか^ん時間^へと^つな^がった^のだ^と思^{おも}います。

—メッセ^づージ^なカード^な作^なり^は、みんな^が仲^な間^のこ^とを^{おも}っ^てい^る、^いう^ことが^{かん}感^かじ^られた^{かつどう}活^か動^でした。^{イメージ}イ^メー^じを^{こと}言^{げん}語^にして^か買^だい^しで^きた^ことも^よ良^かった^です。^いま^だに^こ来^られ^ない^な仲^な間^がまた^が学^が級^に参^{さん}加^し、^{いっ}しょ^に一^し緒^にコ^うス^活動^がで^きる^ことを^{ねが}願^って^いま^す。

と、^かた^られ^まし^た。メ^ッセ^ージ^カー^ド作^りの^活動^はみんな^の印^{いん}象^{しやう}に^こ残^{のこ}っ^てお^り、^{せい}ね^んが^つき^{ゅう}青^{せい}年^{ねん}学^が級^とい^う場^ば所^と仲^な間^の位^い置^ちづ^けを^{さい}か^くに^ん再^{さい}確^{かく}認^{にん}す^るこ^とが^{でき}た^活動^にな^った^よう^です。^活動^のね^らい^でも^ある「^じぶ^ん自^お分^たち^の想^{おも}い^を伝^つえ^あい、^たが^お互^おい^の想^{おも}い^を共^き有^{きゆう}する」と^いう^{てん}点^にお^いて^も、^あつ^まった^{メン}バ^ーで^いけん^{こう}交^{こう}換^{かん}を^しな^がら^なか^ま仲^な間^との^ここ^ろ心^のつ^なが^りを^{たい}せ^つ大^{だい}切^{せつ}に^した^活動^を進^{すす}め^るこ^とが^{でき}ま^した。

4. 課^かだい 題^{だい}と展^{てん}望^{ぼう}

や^って^みたい^活動^として^{さく}ね^んど^いけん^と昨^{さく}年^{ねん}度^も意^い見^{けん}と^{して}あ^がっ^てい^た「^{とし}よ^{かん}図^が書^い館^への^{がい}し^{ゅつ}外^ち出^り」^ちょう^りか^つど^う「^{てん}りょう^り調^り理^活動[」]は、^{ざん}ね^んな^がら^こん^{ねん}度^も実^{じつ}施^しす^ことが^{でき}ま^せん^でした。^しか^し、^{かん}せ^んし^{ょう}感^{かん}染^せん^しょう^{たい}対^{たい}策^{さく}を^じゅう^{ぶん}十^{じゅう}分^{ぶん}に^{こう}講^{こう}じ^た上^でで

じょう^{けん}条^{じょう}件^{けん}や^{たい}み^んぐ^がタイ^んギ^んン^グが^あえ^ば、^{こん}ご^じつ^し今^{こん}後^ご実^{じつ}施^しで^きる^可の^うせい^は可能性^は十^{じゅう}分^{ぶん}に^ある^とかん^が考^{かん}え^てい^ます。

いち^にち^とお^ひ一日^に通^かして^がく^{きゅう}学^が級^活動^が開^{かい}催^{さい}さ^るる^時期^もあ^りま^した^が、^{かん}せ^んし^{ょう}コ^ろナ^ウイ^ルス^感染^せん^{じょう}状^{じょう}況^{じょう}により^ご午^ご後^ごか^らの^{かい}催^{さい}に^なる^ことが^ほと^んど^でし^た。^{ぜん}たい^で全^{ぜん}体^{たい}で^の活^{かつ}動^が制^{せい}限^{げん}さ^れて^しま^うこ^と、^こう^すで^活動^する^{じかん}時^が間^が短^みく^なっ^てし^まう^こと^は致^{いた}し^かた^りま^せん^でし^たが、^{じょう}き^{ょう}その^な状^{じょう}況^{なか}の中^でも^しや^{かい}じ^{ょう}せ^い社^{しや}会^{かい}情^{じょう}勢^{せい}や^がく^{きゅう}学^が級^{じょう}状^{じょう}況^を確^{かく}認^{にん}し^なが^ら、^{とき}その^{とき}時^のひ^つす^じこ^う事^じ項^を優^{ゆう}先^{せん}的^{てき}に^かわ^い合^あい、^{かつ}ど^う活^か動^を進^{すす}め^られた^ことも^よ良^かった^{てん}点^です。^がく^{きゅう}学^が級^{ぜん}体^に関^かわ^るこ^とを^こう^す内^でで^{てい}ね^いに^かわ^い合^あった^こと^で、^それ^ぞれ^のコ^うス^がそ^れぞ^れの^{とく}し^{よく}特^{とく}色^{しよく}を^いか^した[「]仲^な間^を想^{おも}った^活動[」]を^{じつ}せん^する^ことが^{でき}、^{せい}か^う成^{せい}果^かが^うま^れた^ので^はな^いか^とかん^が考^{かん}え^ます。

これ^から^もい^{けん}意^い見^{けん}や^きも^ち気^き持^もち^の共^{きょう}有^{ゆう}を^{たい}せ^つ大^{だい}切^{せつ}に^しな^がら、^くら^しや^{せい}か^つ生^{せい}活^{かつ}を^より^よく^する^ため^につ^な繋^{つな}が^る活^か動^を展^{てん}開^{かい}し^てい^けた^らと^{おも}い^ます。

こうみんかんがっきゅう
公民館学級 さくらんぼスポーツ体づくりコース

かつどう なが
活動の流れ

6月6日	かいきゅうしき じ こしょうかい 開級式、自己紹介
6月20日	わかそよグループかつどう わかそよグループ活動
7月4日	わかそよグループかつどう わかそよグループ活動
7月18日	わかそよグループかつどう わかそよグループ活動
8月1日	わかそよグループかつどう きつえい わかそよグループ活動・撮影リハーサル
8月8日	わかば かぜ きつえいほんばん 若葉とそよ風のハーモニーコンサート2021 撮影本番
9月19日	ごご かつどう がっき ごと ほんしあ がっきゅう うたう Pmからのコース活動 楽器コースと合同 話し合い 学級ソングを歌う
10月17日	ごご かつどう ごと ほんしあ たいこうせん Pmからのコース活動 ものづくりコースと合同 話し合い、ポッチャ対抗戦
11月7日	ぜんたいはな あ かつどう こが さか こうえん はな あ 全体話し合い活動 高ヶ坂ウォーキング 公園でスポーツ 話し合い
11月21日	つどい こが さか きんりん かりがべ つどい 高ヶ坂近隣のウォーキング 芹ヶ谷グラウンドでスポーツ
12月5日	かいじゅんび じかいはな あ おおいし かい クリスマス会準備 次回話し合い つどい (大石さんをしのぶ) クリスマス会
12月19日	やまと こうえん がいしゅつ はな あ じかい かつどう 大和の公園へ外出 話し合い 次回からの活動
1月16日	ごご かつどう しょうがつ ほなし てんまんぐうきんりん きんぼ よこはせん み Pmからの活動 正月の話 天満宮近隣の散歩 横浜線を見る
2月6日	ごご かつどう やまと こうえん がいしゅつ ぜんかいけつせきしゃ Pmからの活動 大和の公園へ外出 (前回欠席者)
2月20日	ごご かつどう やくしいけがいしゅつ はっぴようかいよう しかい どうがきつえい Pmからの活動 薬師池外出。発表会用、司会など動画撮映
3月6日	ごご かつどう はっぴようかいはな あ せい かはっぴようかい Pmからの活動 発表会話し合い 成果発表会

1. 集団の特徴

コロナにおける緊急事態宣言と蔓延防止

発令のため、夏休み後、9月から10月の前半は参加者が少なかったため、2コース合同での活動しました。

11月から1日のコースの独自の活動がはじまりました。11月から始動したコースは、19年度からのメンバーに1名の新入学級生が加わりました。

学級生 20代男性4名、30～40代女性2名・男性3名(今年度新入学級生1名を含む)計9名のメンバーで活動しました。

昨年は、1名がグループホームでの生活でほとんどの学級生は家庭で生活していました。

しかし今年度に入りショートステイ利用や、グループホーム体験入所など、生活が変化する学級生が増えてきました。

今年度も、コースでの活動が始まった11月からは、班長会からの提案の「新たなコース編成をせず、一昨年度からの継続したコースでよい」という参加者6名の意見を確認しました。同じメンバーでの活動のため、活動当初から仲間関係はスムーズでした。

2. 活動のねらい

一番のねらいは、コロナ感染防止対策を行なっていくということでした。

7階ホールがワクチン接種会場となり活動部屋が狭まり、食事時の感染予防を行えるかが担当者会で検討した結果、感染者数が減る予想がつかなかった1月から発表会までは、食事後の午後からの活動となりました。

それでも出席できない学級生に関しては、連絡

時に家庭での様子を聞き、出席できないことを受け止めていく。参加できなくても職場や家で元気に過ごしている様子を、コース活動参加者に伝えていく。ニュースにも参加できない学級生への名前を入れ、エールのことばをそえていきました。

「スポーツをしたい」「散歩をして健康になりたい」コロナ禍で「健康に過ごすにはどうしたらよいか」という事を考えていきたい」という前年度のねらいで引き続き活動することを参加者で確認しました。言葉で表現するのが苦手な学級生には、活動時に、それぞれの得意なところを引き出せるよう支援し、自身の達成感から自信につながるよう、またそれを仲間同士が認めあえるような学級づくりを継続して目指しました。

3. 活動の様子と評価

(1) 話し合い

① 2コース合同の話し合い

9月から10月の活動は感染拡大のため、参加者が少ないコースもあったため、2コース、合同の活動にておいて話し合いが行なわれました。楽器コースとのコラボ活動では「スポーツ活動をした」、ものづくりコースとのコラボ活動では、「1日の活動がしたい」「散歩がしたい」「朝からが良い」「去年からのコースでよい」「スポーツしたい」「ボッチャやりたい」とスポーツメンバーが主張し、ボッチャの活動の実施につながりました。

② クリスマス会についての話し合い

健康コースとしての活動の話し合いは11月7日の午後、ウォーキングや、スポーツを行った後、コース単独の初めての話し合いを行うことが

できました。11月21日は6名の参加があり、午前の「つどい」での話し合いで出た、クリスマス会についてを確認をしました。みなさんから「クリスマス会は行いたい」「(学習センターの)ホールで行いたい」ということで、クリスマス会は、12月5日(日)の、ホール使用可能日に実施という確認をしました。その他、「歌を歌いたい」「ダンスをしたい」「プレゼント交換をしたい」などの意見が出ていました。「学級ソングのCDのプレゼントが良い」ということも含めて、副班長のH.Kさんが班長会で、伝えることになりました。

ひょうか 評価

ひさ
久しぶりのコース活動で
めい さんかしや
6名の参加者からは、スポー
ツで体を動かした後だったか
らでしょうか積極的な意見が
出ました。
ひさ
久しぶりに昨年と同じ、ホー
ルでクリスマス会の活動がで
きるという喜びであふれてい
ました。

(2) クリスマス会の活動

くりすますかいとうじつ ぜんいん さんか しんにゅう
クリスマス会当日は、全員の参加と、新入
がっきゅうせい たいけん さんか
学級生が体験ということで参加しました。
おうえんたんどうしや くわわ ひさ にぎ がっきゅうび
応援担当者が加り、久しぶり賑やかな学級日
となりました。午前中は、初めに班長が出席
かくにんご くりすますかい みな さくせい
を確認後、クリスマス会の「めくり」を皆で作成
あか みどり くりすますからー
しました。赤と緑のクリスマスカラーの
まじっく かくじ じしょく か まわり みな
マジックで各自1字1色ずつ書き、周りに皆で
え か おりがみ とくい がっきゅうせい きん
絵を描きました。折紙の得意な学級生が金と
ぎん ほし
銀で、星をつくったので張り、ヒイラギの葉に、

まじっく でみ か がっきゅうせい がっきゅうせい
マジックで実を描く学級生もいて学級生の
みな ごどう さぎょう すてき
皆さん合同の作業で素敵なめくりができた
た。



ごご
午後からは、換気システムの良いホールで、
さいかい よろこ がっきゅうそんぐ うた あき
再会を喜び、学級ソングを歌いました。秋に
な なくなった、障害を持っている人たちの学び
ば ひつようせい かん まちだ せいねんがっきゅう た
の場の必要性を感じ、町田に青年学級を立ち
おおいしよこ ついとう おこな
上げた、大石洋子さんの追悼を行いました。
せいねんがっきゅう そつぎょう かい
青年学級を卒業した、とびたつ会の、H.Mさ
ん けいけん なが たんどうしや はなし き おおいし
んと経験の長い担当者の話を聞いて大石さん
が生前話していた、「自分が主人公で生きてい
く」という発言をうなずきながら聞いていまし
た。また、津久井やまゆり園の被害にあわれた
かたがた ついとう おこな いのち たいせつ たしか あ
方々への追悼を行い命の大切さを確かめ合

いました。最後にプレゼントを配る役目のさくらんぼスポーツ体づくりの皆さんが、サンタのぼうしや上着を着たり、トナカイの角、天使の羽など、好みのコスプレを付けてホールに入場し、「わかそよ2021」のロゴがついたポーチとCDのプレゼントをうれしそうに配りました。

評価

公民館学級のクリスマス会は、世間でいうクリスマス会のような行事ではなく、元気にこの日を迎えることができた、互いの存在を確かめ合うという行事ということは何年も行っています。大石さんと一緒に活動を行ってきた学級生のうなずきながら話を聞いている姿や、大石さんを知らない青年の感想の言葉を聞いているコースの学級生の姿がありました。今年度の「わかそよ」で歌った曲の詰まったCDとポーチを、参加者に配る役目を、前回の活動で話し合いをしていたので、その役目をコース全員がしっかりと果たしていました。

(3) 外出活動について

①近隣のウォーキング

11月7日は、楽器コースと合同の活動予定でしたが、皆さんの要望で、さくらんぼスポーツ6名で散歩に出ることにしました。1時過ぎから歩きはじめ、3時ごろまで2時間、1万歩ほど歩きました。紅葉に包まれた芹ヶ谷公園のスロープを下り、版画館、高ヶ坂方面を歩き、恩田川沿いを歩きました。残念ながら、カワセミは見つけられませんが、帰路、原町田市民の森の中、落葉を踏んで歩きました。11月21日、3年目の担当者に付き添われて歩いていた学級生は、力強く歩く先輩学級生と



て手をつなぎ、足取りもよく歩きました。他の担当者や支援されて歩いていた学級生は、自力で歩く姿が多くみられました。体力のある学級生は、足が速いので様子を見て仲間を待っていたりしながら歩いていました。

この日の思い起こしでは、「つかれた」「汗かいた」と言っていたが、「自分でがんばった」「Nさんと歩いた!」と主張していました。体力のある学級生は、「つかれた」といいながらも、余裕の表情をしていました。

②遠出の外出

全員参加のクリスマス会午前の活動にて次回活動について話し合いましたが、皆さん「外出がしたい」という意見でした。サクラんぼスポーツのコースで体験していた学級生も、ホワイトボードに「外出したい」と書いてサクラんぼスポーツのコースに加わることを表明していました。

しかし、外出という意見はありましたが、場所が決まりませんでした。まずは、担当者から早めの電話連絡で、電車バス利用の外出が可能なかどうかを家庭に確認したところ、感染拡大もおさまってきたころでしたので、皆さんがOKでし

た。そこで、「大きな富士山が見えるところに行きたい」とよく言っていた学級生がいたこと、人出の少ない場所、乗り物は近い所ということで大和の「ゆとりの森」で午前中ウォーキングをし、センターに戻って、昼食をとるということ、予定や持ち物をニュースに書いてお知らせしました。

12月19日、大和ゆとりの森、綾瀬スポーツ公園に行きました。二つの公園を合わせた広い公園内で、雪の富士山を見て皆さん感激。起伏もありながらも、歩きやすい道のウォーキングを楽しみました。



テニスやサッカーなどのスポーツに興味深く眺めたり、「桜が咲いたら来てみたいです」と話す学級生もいました。ウォーキングして12月でも、「暑い暑い」と汗を拭いたり外周をテンポよく歩き、仲間を待っている学級生など歩き方はそれぞれでした。ウォーキング後、腰が痛いとし少し休む学級生もいて無理せず、帰りも駅まで地域の巡回バスで行き、小田急線電車の乗り継ぎもスムーズでした。皆さんからは、午前中だけの活動でしたが、満足した感想が聞かれました。

評価

さくらんぼスポーツ体づくりの活動では、話し合い前後1から2時間の近隣のウォーキングを行



ったことで、話し合いの活動が集中して行われてきました。今年度も、クリスマス会の話し合いの時、ウォーキング後のクリスマス会の話し合いは活発に行われました。

3年目の学級生のN.Kさんは、新入の頃から比べると、食事が積極的にになり、ウォーキングの足取りが早くなり、仲間からほぼ離れず歩くようになってきました。11月の近隣のウォーキングにて、担当者が付けず、仲間の学級生と手をつないで歩きました。安定して歩き大分慣れてきたことを実感しました。又、ウォーキング後の話し合いの時、少し離れたところに座っていたN.Kさんが仲間のいる話の輪の中に自ら移動して座りま

した。「頑張^{がんば}って歩^{ある}いた？」と担当^{たんとしや}者が聞^きくと手^てを挙^あげて満^{まん}足^{ぞく}そう^えな笑^え顔^{がお}を見^みせま^せした。あまり目^{もく}的^{てき}を持^もって自^じ分^{ぶん}から移^い動^{どう}する^なこと^{おも}の無^ない^{おも}よう^{おも}に思^{おも}え^{おも}た。N.K さん^{ねんめ}ですが、3年^{ねんめ}目^めにしてN.K さん^なの仲^な間^{かま}意^い識^しを間^まの当^{あた}り^{たり}に^にしま^した。

感^{かん}染^{せん}減^{げん}少^{しょう}状^{じょう}況^{きやう}の寸^{すん}暇^かに、電^{でん}車^{しや}に乗^{じやう}車^{しや}しての^の外^{がい}出^{しゅつ}をし、コ^こロ^ろナ^な禍^か、非^ひ日^{にち}常^{じやう}の活^{かつ}動^{どう}を行^{おこ}なう^{こと}が^ができ^{でき}ました。

(4) 成^{せい}果^か発^{はつ}表^{びやう}会^{かい}について

コ^こロ^ろナ^なウ^うイ^いル^るス^す蔓^{まん}延^{えん}防^{ぼう}止^し中^{ちゆう}、各^{かく}家^か庭^{てい}の事^じ情^{じやう}や、職^{しよく}場^ばの状^{じやう}況^{きやう}が厳^{げん}しくな^なった^{こと}から、発^{はつ}表^{びやう}の素^そ材^{ざい}の^の写^{しゃ}真^{しん}はあ^ある^のです^が、発^{はつ}表^{びやう}する^が学^{がく}級^{きゆう}生^{せい}の参^{さん}加^かが^が危^{あや}ぶま^まれ、昨^{さく}年^{ねん}集^{あつ}まり^{やす}か^かった、薬^{やく}師^し池^い公^{こう}園^{えん}の^の集^{しよく}合^{ごう}を計^{けい}画^{かく}しま^した^が、参^{さん}加^かでき^きた^が学^{がく}級^{きゆう}生^{せい}は2名^{めい}で^でした。

活^{かつ}動^{どう}の紹^{しやう}介^{かい}の文^{もん}字^じを書^かき、動^{どう}画^{がく}撮^{さつ}影^{えい}をしま^した、成^{せい}果^か発^{はつ}表^{びやう}会^{かい}さく^さら^んぼ^ぼス^すポ^ぽー^ーツ^つの紹^{しやう}介^{かい}の^の動^{どう}画^{がく}と写^{しゃ}真^{しん}を2名^{めい}の参^{さん}加^か者^{しや}が紹^{しやう}介^{かい}し^し発^{はつ}表^{びやう}を行^{おこな}い^いました。冬^{とう}季^きオ^おリ^りン^{りん}ピ^ぴク^くもあ^あり^りま^した^が、冬^{とう}季^きス^すポ^ぽー^ーツ^つの、実^{じつ}体^{たい}験^{けん}が少^{すく}ない^いから^{から}で^でし^しょう^うか、興^{きやう}味^みが^がな^なく^く話^わ題^{だい}は盛^もり^あがり^あり^りま^して^てし^した。

評^{ひやう}価^か

正^{しやう}月^{がつ}明^{めい}け^かから2月^{がつ}にはオ^おミ^みク^くロ^{ろん}感^{かん}染^{せん}が^{ぞう}加^か増^{ぞう}し、職^{しよく}場^ばでは感^{かん}染^{せん}者^{しや}も出^でて^て作^{さく}業^{ぎやう}所^{しよ}を休^{やす}む^{じやう}状^{きやう}況^{きやう}も^もあ^あった^たよ^よう^うで^でした。

さく^さら^んぼ^ぼス^すポ^ぽー^ーツ^つ体^{からだ}づ^づくり^りコ^こー^ース^すの皆^{みな}さん^{さん}は、一^{ひと}人^りも感^{かん}染^{せん}する^{こと}な^なく^く過^すご^ごせ^せた^た事^{こと}は、一^{いち}番^{ばん}の^の成^{せい}果^かで^でした。冬^{とう}季^きオ^おリ^りン^{りん}ピ^ぴク^くもあ^あり^りま^した^が冬^{とう}季^きス^すポ^ぽー^ーツ^つの、実^{じつ}体^{たい}験^{けん}が少^{すく}ない^いから^{から}で^でし^しょう^うか^か話^わし^し合^あい^いでは興^{きやう}味^みが^がな^なく、話^わ題^{だい}は盛^もり^あがり^あり^りま^して^てし^した。

(5) 課^か題^{だい}と展^{てん}望^{ぼう}

基^き礎^そ疾^{しよく}患^{わん}のある^の家^か族^{ぞく}へ^への用^{よう}心^{しん}や、家^か族^{ぞく}の入^{にゅう}院^{いん}など^{など}からシ^しョ^ょー^ート^とス^すテ^てイ^い入^{にゅう}所^{しよ}やグ^ぐル^るー^ープ^ぷホ^ほー^ーム^むに^に入^{にゅう}所^{しよ}せ^せぎ^ぎる^るを^を得^えない^いなど、お^おり^りし^しも感^{かん}染^{せん}拡^{かく}大^{だい}が^が職^{しよく}場^ばに入^{にゅう}っ^てき^きた^たた^ため、自^じ宅^{たく}待^{たい}機^きなど、コ^こー^ース^すの方^かた^たが^が生^{せい}活^{かつ}の^の変^{へん}化^かが^が電^{でん}話^わ連^{れん}絡^{らく}か^から^らわ^わか^かり^りま^まし^した。全^{ぜん}般^{ぱん}に、参^{さん}加^か者^{しや}は少^{すく}ない^い日^ひもあ^あり^りま^まし^した^が、ク^くリ^りス^すマ^まス^す会^{かい}の^の日^ひは、全^{ぜん}員^{いん}参^{さん}加^かの^の活^{かつ}動^{どう}が^ができ^{でき}ま^まし^した。又^{また}次^{つぎ}の^の外^{がい}出^{しゅつ}の^の活^{かつ}動^{どう}へ^へと^とつ^つな^なげ^げる^るこ^こと^とが^ができ^{でき}ま^まし^した。ス^すポ^ぽー^ーツ^つの^の活^{かつ}動^{どう}に^には、3年^{ねん}間^{かん}継^{けい}続^{ぞく}して^{して}き^きた^たポ^ぽッ^っチャ^{ちゃ}に^に関^{かん}して^{して}は、活^{かつ}動^{どう}する^{こと}が^が少^{すく}なく^く投^なげ^げ方^{かた}の^の加^か減^{げん}を^を忘^{わす}れ^れて^てい^いま^まし^した。ポ^ぽッ^っチャ^{ちゃ}は^は学^{がく}級^{きゆう}生^{せい}の^の行^{かい}い^いたい^い、要^{よう}求^{きゆう}の^の強^{つよ}い^い活^{かつ}動^{どう}な^なので^で来^{らい}年^{ねん}度^どは^は積^{せつ}極^{ごく}的^{てき}に^に取^とり^り組^くんで^でい^いける^{よう}、学^{がく}級^{きゆう}生^{せい}と^と話^わし^しあ^あつ^つて^てい^いきたい^いと思^{おも}い^います。今^{こん}年^{ねん}度^どの^の新^{しん}入^{にゅう}学^{がく}級^{きゆう}生^{せい}は、2回^{かい}の^の参^{さん}加^かで^でし^した^がコ^こー^ース^す全^{ぜん}員^{いん}参^{さん}加^かの^の時^{とき}に^に参^{さん}加^かでき^きて^て活^{かつ}動^{どう}を^を楽^{たの}し^しんで^でい^いま^まし^した。来^{らい}年^{ねん}度^ど、そ^それ^れぞ^ぞれ^れの^の成^{せい}長^{ちやう}か^から、あ^あた^たら^ら新^{しん}しい^いコ^こー^ース^すを^をえ^えら^ら選^{せん}んで、す^すて^てっ^っぶ^ぶあ^あっ^っぶ^ぶして^{して}ほ^ほしい^いと思^{おも}い^います。



こうみんかんがつきゅう
公民館学級

げき
劇・ミュージカル

ゆめのつづきコース

かつどう
活動の流れ

ひ づけ 日 付	かつどうないよう 活動内容
がつ にち 9月19日	【午後活動・合同】今年度の青年学級・コース活動をどうするかの話し合い
がつ にち 10月17日	【午後活動・合同】合宿に代わる活動として健康福祉会館でどんな活動をするのか話し合い
がつ か 11月7日	【午前中：健康福祉会館でつどい】 【午後：生涯学習センターでコース活動】 ・ミュージカルのテーマについて話し合い ・青年学級を作った大石さんについて話し合い ・オリジナルソングをうたう
がつ にち 11月21日	・自己紹介（コロナ禍での生活について） ・クリスマス会ですることについて ・ミュージカルのテーマについて ・調理（お菓子作り）について
がつ か 12月5日	・ミュージカルのテーマについて ・調理（お菓子作り）について
がつ にち 12月17日	・ミュージカルのストーリーやセリフづくり ・参加できていない仲間に年賀状書き
がつ にち 1月16日	【午後活動】 ・ミュージカルのストーリーやセリフづくり
がつ か 2月6日	【午後活動】 ・ミュージカルのストーリーやセリフづくり ・オリジナルソングの歌詞づくり
がつ か 2月20日	【午後活動】 ・絵を描く活動に参加 ・「世界の果てまで伝えよう」「そのままに」を練習。
がつ か 3月6日	【午前：成果発表会の練習】（午後：成果発表会） ・シナリオの確認とセリフの決め ・うたの練習

1. 集団の特徴とねらい

男性7名、女性5名の計12名のメンバーで活動しました。劇やミュージカルで表現したいというメンバーが集まったコースです。言葉でコミュニケーションがとりにくい人が多いほか、トイレ介助や食事介助も一定の支援者数が必要なコースでした。

そのために、発言が困難なメンバーや自分の口頭での発言が十分でないと感じたメンバーからの求めに応じて、介助付きコミュニケーションの一環である「筆談」を支援者が使用して話し合いを行っていました。

またメンバーには、ベテランも多く、活動の中心となって進める人、声掛けや表情で明るい雰囲気を生み出す人、しっかりと意見を伝える人と、それぞれの役割で活動を進めていました。

一般就労をしていたり、生活の場がグループホームなどで、生活の課題に直面している人であれば、重い障がいにより家庭と施設中心の生活となり、日常生活に制約が多いメンバーがいます。

コースのメンバーは、コロナ禍が理由でほとんど出席しない3名（うち、1名はリモート参加）を除き、通年では多くのメンバーが参加しての活動が可能でした。

コースでやりたいことは、当初、午後からの活動が続き参加者の数も見通せなかったため、単発の活動を念頭に絵を描くことや調理などの活動の希望がありました。11月を過ぎて活動が一日になった頃から、新しいミュージカルを作ることを意識において話し合いが進められました。

ミュージカルコースでここ数年取り組んでいたのは、「津久井やまゆり園」の事件を受けて、事件や事件を聞いて傷ついた仲間にも力強いメッセージを出すことを念頭に考えていました。

今年度の話し合いでは、コロナ禍で人とのつながりを断ち切られていた仲間のことを思い、コロナ禍に負けずにきずなを大切に暮らしていることをメッセージとして伝えるミュージカルを制作することにに向けて取り組んでいきました。一年間の途中で活動の形態が何回も変わったり、決して取り組みやすい環境ではありませんでしたが、自分たちの思いをミュージカルにすることにに向けて取り組みました。

2. 活動の様子と評価について

(1) 集まることから活動内容を模索する取り組みへ

夏休み前は、学級に参加できない人が取り残されないように「若葉とそよ風のハーモニーコンサート」という、コースや学級に縛られない活動を進めていました。

9月の夏休み後からは、午後からのコース単位での活動が可能になり、徐々にこれまでの青年学級の活動形態へと移行していきました。

メンバーやスタッフが集まらなくて合同で活動したり、オンライン参加のメンバーもいたり、通常の活動には程遠い状態でしたが、青年学級のこれからの活動をどうするかということから、みんなで話し合いました。

最初はメンバーごとに集まったものの継続的な活動を行うことができるのかも不透明な状態だったので、一回の活動で完結するような何かを

制作することも念頭に置いていました。

「おかしづくりでクッキーやケーキを作りたい」というグループホームで生活するメンバーの意見や、「絵を描いたり、みんなが描いた作品を見せあったりしたい」という発言もこのような背景からの意見でした。

また、この時期には青年学級に集まること自体が勇気の必要な環境であったことから、「みんなで活動を作ることが大切」というベテランのメンバーの発言や「コロナ禍で来られていない人がいるので、置いてきぼりにしないように、今までの活動を振り返って鑑賞したりしたい」といった車いすを使用するメンバーの発言、「筆談で話す時間もあるとよい」という音声での発言が苦手なメンバーの意見にあるように、まずは継続的に集まり話し合うことが大切にされてきました。

また、通常の活動であったら学級全体で行う合宿についても、今年も行わない方向で話が進みました。他のコースとの合同の活動で出された「みんなが感じていることを話す時間にあてる。集いのように。」という意見どおり、まずは、11月7日に全員で集える場所（健康福祉会館）を確保して、久しぶりに午前中にも活動をする事となりました。

公民館学級では通常の活動の朝と夕方に生涯学習センターのホールで全員が集まって歌ったり、話し合ったりする「つどい」を行っていますが、大きなホールがワクチンの集団接種会場となっているために全員で集まることも、なかなか難しいという事情もありました。

広い会場に全員で集まり、夏休み前までに取

り組んでいた「若葉とそよ風のハーモニーコンサート」の動画を流したり、オリジナルソングをうたったり話し合いをしたりと、日常の青年学級の活動に戻っていくための良い再スタートとなりました。

(2) ミュージカルづくりに向けて

11月になりましたが、継続的に1日活動が行える見通しができたことから、ミュージカルをつくる活動を行いたいという希望が出てきました。

「やりたいことがあったら言っていきませんか。」と投げかけたメンバーは、自ら「私はコロナがテーマのミュージカルを作りたい。」と提案しました。「歌やダンスが得意なので、自分たちのうたや振り付けを入れたい。」という意見や、「勝手気ままなコロナ姫がヒロインのストーリーにしよう。」という提案があり、オリジナルのミュージカルづくりがスタートしていきました。

丁度、青年学級を立ち上げた元公民館職員の大石さんが亡くなったというニュースを聞いたばかりだったので、ベテランのメンバーからの「天国から「輝く姿を期待しています」と言われている気がします。」という発言もありました。

ミュージカルづくりは、身体的な障がいがある重度でコロナ禍で孤独にさいなまれたメンバーからの「コロナ禍でみんなに会えなかったりしたときの思いを劇にしたい」という意見に加えて、一般就労しているメンバーからの「やまゆり園の仲間にはげましの言葉を言いたい。犠牲になった人に「大変だったね」と言いたい。」という意見もあり、テーマに障がいがある当事者の視点が加わりました。

また、話し合いのなかからストーリーやセリフに結びつくような印象的な言葉が生まれてきました。

・「私たちの生きる意味を取り戻す戦いを描きたい。武器は「仲間とのきずな」勝ち取ったからものは「人生の輝き」

・「仲間は人生を生きるためのワクチン」

・「みんな、目を覚ませ。人生を自分の手にしっかりと握っていないとあっという間に暗闇に取り込まれてしまうぞ。」

・「一人一人離れてしまっは、僕たちの力がわいてこない。勇気を持ちましょう。つながって生きていきましょう。」

成果発表会の舞台のイメージについても、コロナ禍のシーンを舞台上に一人ひとりはなれて座っていて表現するという提案がありました。また、そばにいる仲間であっても声を上げないと気がつかない設定も加わりました。

仲間にいることに気が付いた人の歌声が次々と重なって行って、最後には大きな歌声にすること。大きな声で歌うときは、衣装も変えることなど、たくさんの提案で、イメージがふくらみました。

また、ミュージカルづくりではないですが、年末の活動には、参加できていない仲間に、代表のメンバーが言葉やイラストを年賀状に書き、早く仲間会いたいことを伝えていきました。

(3) 成果発表会で何ができるか

一方で、1月からはコロナ禍の第5波がピークを迎え、青年学級も午後からの活動に短縮されました。再び午後からの活動に戻ることでもともと準備する時間が厳しかったミュージカルづ

くりも見直しを迫られ、方向を見直すために、話し合いを重ねました。

・「歌を中心に発表できるといい。」

・「セリフや発表の内容をみんなで話し合ってきた。コロナ禍で気持ちや僕たちの思い、人生で大切なことを伝えたい」

・「ぼくたちの言葉を大切にしたい。話し合いの言葉をセリフや歌にして発表しましょう。」

・「活動の中で話し合ってきたことを何か残して行ってほしい。セリフは必要だと思うので誰かはなす言葉のはっきりしている仲間をお願いします」

・「話し合ってきたことでも、前に作った歌でも発表できることはあるはず。」

たくさんの意見を重ねていく中で、成果発表会に向けて可能な限りミュージカルづくりを進めていくことになりました。

・明るく歌をうたいたい。心が安らぐような歌を作りましょう。

・美しく悲しいよりも、元気にガヤガヤしてみんなで陽気に歌をうたいたい。「みんなの心をつないで、未来をつかもう」というフレーズを入れましょう。

・みんなとのつながりが大切。「暗闇からしっかりと手をつないで」というフレーズを入れてほしい。

感染が拡大するとリモートで参加するメンバーも増えて、班長をしているメンバーは画面越しに笑顔でうなずいていました。同じくリモートで参加している歌もダンスも得意なメンバーは「私はみんなに会いたい」という歌詞を入れてほしいという意見を伝えていました。

また、「歌をうたいたいし、コロナが終わって

早く青年学級に行きたい。」と画面越しで話していました。

参加もできずオンラインでの参加の条件整備が難しいメンバーは、スタッフに電話してきて話し合いに参加したりと、工夫しながらも活動を継続しました。

話し合いの中では、「コロナが終わったら寮（グループホーム）を見学に行きたい。」というコロナ禍の後を見据えた活動の提案もできました。

最後まで歌詞やシナリオづくりに向けて活動を進めましたが、ミュージカルを舞台上で発表するところまでには届きませんでした。

(4) 成果発表会のステージから

いよいよ3月6日の成果発表会です。発表内容はこれまでコロナ禍の中の気持ちをミュージカルにするために取り組んでいたこと、コロナ禍で感じた気持ち、あらすじ程度のミュージカルのシナリオと新曲のために準備した歌詞を発表しました。

新しいミュージカルやオリジナルソングはできませんでしたが、昨年度までの活動で生まれたオリジナルソングを2曲うたいました。最初は「そのままに」、最後は「世界の果てまで伝えよう」です。

4. 活動の様子と評価について

今年度は残念ながら、コロナ禍やスタッフの参加状況により、通年で継続した活動を行ったとは言い難い状況でした。

活動自体が8月までは「若葉とそよ風のハーモニーコンサート」の取り組み、9月からは複数コースで午後からの活動、11月からやっと通常の

コース活動、1月からは感染状況の悪化により午後から活動と、コロナ禍に振り回され、どこをゴールに、どこに焦点を当てて活動すればいいのかもわからない状況でした。

しかし、同じメンバーで3年目の活動ということも理由かもしれませんが、メンバーは劇やミュージカルでの発表をあきらめることはありませんでした。

3年前から、「津久井やまゆり園」の事件を受けて、亡くなったり傷ついたりした仲間や同じ施設で暮らしていた仲間、そして障がいがある当時者としての自分たちの思いを語りあいながら、劇やミュージカルでの表現を目指してきました。

今年度の活動では、コロナ禍での仲間の思いが大切にされました。青年学級は障がいがあるメンバーにとって、かけがえのない場所になっています。ここでは、一人の思いを持った人間であることを肯定され、仲間と共に生きる喜びを感じることができるからです。

しかし、どんなに活動に参加したくても、様々な条件から参加できないメンバーがいます。また、コロナ禍が拡大した時には、家庭から一歩も出られずに、絶望して気持ちが荒れた仲間もいます。

受け止めきれないような問題が出てきたときに、このコースのメンバーは劇やミュージカルをとおして問題に向き合おうとしました。

結果として作品の完成はみませんでしたが、かなり近いところまで話し合いは進んでいた気がします。スタッフの体制やコロナ禍の影響はありますが、このあきらめない取り組みは、コース活動の大きな成果として、今後の活動に引き継いでいければと思います。

ゆめのつづきコース 成果発表会台本

あいさつ（ ）

これから、劇ミュージカルコースの発表を始めます。

♪「そのままに」（2019年度制作オリジナルソング）

活動の紹介1（ ）

今年度は夏休み前までは、動画でみんなに見てもらえるように「若葉とそよ風のハーモニーコンサート」づくりに取り組んできました。

活動の紹介2（ ）

秋からは、午後からだけでしたが、ようやくコース活動が再開されました。11月からは待ちに待った1日の活動になりました。

活動の紹介3（ ）

お菓子作りなどの意見も出ましたが、コースの仲間はコロナで感じたことをみんなに伝えたいという強い気持ちを持っていました。

コロナへの想い1（ ）

コロナでたくさんの方が苦しい思いをして、大切な人を亡くしたかたもいます。

コロナへの想い2（ ）

コロナでどこにも出かけられなくなった時、だれも僕に関心を持ってくれない、世界からはじき出されたように感じました。

～ここから劇の世界へ～

そんなコロナをミュージカルにできないかな。(ピアノの効果音)

♪身勝手気ままなあの子 地位に権力やりたい放題
いつもいつもけんかばかりそうして一人になっちゃった
あらしの吹く夜はじめて 生きる意味を考えた♪

村人1 ()

勝手にふきあれて、勝手にいなくなる、わがままでやりたい放題のお姫様だ。

村人2 ()

コロナ姫は、昨日は機嫌が悪かったので、たくさんの人を吹き飛ばしておしまいになったそうさ。

コロナ姫 ()

「ふきとんでおしまい！」

村人3 ()

おそろしい。おそろしい。

村人4 ()

コロナ姫は、おとといは機嫌がよくて、おひさまをたくさん出してくださった。

村人全員 ()

おやさしい。おやさしい。

コロナ姫（ ）

あなた、生意気ね。わたしをだれだと思っているの。昨日までは親友だとももっていたけど、もういない。吹き飛んでおしまい。

村人5（ ）

おそろしい。おそろしい。

とうとう、コロナ姫の近くには誰もいなくなってしまうわ。

コロナ姫（ ）

みんないなくなっちゃった。あ～せいせいした。

でも退屈ね。

あのガヤガヤうるさい話し声も聞こえてこない。

あのカンにさわる笑い声も聞こえてこない。

何だかくらい洞窟に入ったみたい。

おーい、おーい

私が吹き飛ばした人たちも、こんな気持ちだったのかしら。

心の声1（ ）

暗闇なんてだいきらい。

また、みんなに会いたいな。会えるかな。

心の声2（ ）

きっと、会えますよ。

青空の下で、手をつなぎましょう。

♪暗闇なんかだいきらい わたしはみんなに会いたいな
しっかり手をつないで みんなのころをつないで
未来をつかもう♪

♪あらしなんかだいきらい青空の中で青年学級に行きたい
自分の手で人生をつかむため 寮の見学に行きたい
仲間はころをつなぐワクチン 輝く姿の未来をつかもう♪

♪「世界の果てまでつたえよう」(2019年度制作オリジナルソング)

おわりのことば()
これで成果発表会を終わります。

そのままに

清野 優里(ゆめのつづきコース)
加藤 沙耶香(2019公民館劇ミュージー)

Body

The musical score is written in 4/4 time and consists of seven staves. Each staff contains a line of music with lyrics underneath and guitar chords above. The chords are: C, Em, C, G7, C, G, Am, G, Am, F, Em, Am, G7, C, F, Em, Dm, G, F, G, Am, G, G, F, C, G, C.

か ん じ た い こ と を ー そ の 笑 笑 に
や り た い こ と を ー そ の 笑 笑 に

か い の い ち た の こ と と ば を そ の 笑 笑 に
い の ち た の こ と と ば を そ の 笑 笑 に

み ん な の こ と と も ば を そ の 笑 笑 に
み ん な の こ と と も ば を そ の 笑 笑 に

た の し び い な じ か かん を そ の 笑 笑 に
た の し び い な じ か かん を そ の 笑 笑 に

つ た え よ う よ す け ない こ と も い や ない こ と も そ の 笑 笑 に
つ た え よ う よ す け ない こ と も い や ない こ と も そ の 笑 笑 に

み ん な の こ と ば い の ち の こ と ば あ ら た な き も ち そ の 笑 笑 に
み ん な の こ と ば い の ち の こ と ば あ ら た な き も ち そ の 笑 笑 に

ゆ め の つ づ ー き を こ れ か ら も ず っ と かな で よ う そ の ま ま に
ゆ め の つ づ ー き を こ れ か ら も ず っ と かな で よ う そ の ま ま に

第2章 自治運営 班長会

1 班長会について

メンバーは2019年度から同じです。学級全体にかかわる運営や、行事についての様々なことを調整します。主に、合宿、公民館まつり、クリスマス会、成果発表会についての話し合いが行われ、どういうものにしていくか具体的な運営進行の方向性を話し合いの中でつくっていきます。通常、学級日の活動終了後、16時から17時までの時間を使って、各コースの班長と副班長とが集まって話し合われています。

2 班長会の様子と評価

今年度はコロナの影響で学級に来られないメンバーもいることなどから、つどい委員会と合同で集まり、話し合いの時間の変更などもありました。そうしたコロナの影響でなかなか活動ができませんでした。

9月5日からつどい委員会と合同で活動が始まり、16時から30分時間を作りました。今年度初めての話し合いではコース活動について、来られるメンバーが少ないことからコースをくっつけて行う活動について話し合いました。班長会メンバーから「もっと自分たちが司会進行をして話し合う時間が必要」、「各グループで話し合ったことを共有する時間を作りたい」と意見が出ました。出た意見を踏まえて9月19日の活動では、班長会・つどい委員会のメンバーが司会進行をして、各部屋をzoomでつないで全体で話し合ったことの共有を行いました。

11月21日、クリスマス会に向けて話し合ってい

くためと、活動を戻していくために、30分だった時間をもとの1時間に戻しました。時間が30分だった時、活動終わりに班長会メンバーからクリスマス会について「司会をやりたい」と声をかけられました。その時に役割決め等、話し合う時間を十分に取れていないことに気づきました。

1時間あることで準備期間が短くても、つどいや各コースで話し合ったことを検討し出た意見がしっかりと反映されたクリスマス会になりました。

12月5日、つどい委員会と合同で行っていることについて班長会メンバーから「これからどうしていくか話しませんか？」と提案があり、今はまだ来られないメンバーもいること等からしばらく合同で行っていくことになりました。

つどい委員会と合同で行うことで見えてきたことは、班長会のメンバーの意見が多くなってしまったことでした。そうした中で比較的つどい委員会メンバーの参加が多かった12月19日の話し合いで、1月16日の活動ではホールが使えるので「つどいについて話し合いましょう」と提案をしました。つどい委員会のメンバーから「つどいのことは私たちがきめます」と積極的な発言があり前半、後半の司会、またリクエストボックスは次回から使うことに決まりました。今まではホールでつどいを行っていましたが、ワクチン接種会場になり、なかなか使用することができなくなりました。ホールが使用できないと6階の学習室1、2と3、4をzoomでつないで行います。こうした今までの活動ができない状況で、自然と歌のリクエストをとることや全体へのお知らせ等すべて班長会メンバーが司会を行う流れになってしまいました。

班長会・つどい委員会の話し合いでも、主に班長会メンバーに意見を聞く流れができてしまい、つどい委員会メンバーが意見を出しやすいような話し合いにはなっていませんでした。つどい委員会のメンバーは活動をしっかり行いたいという考えを持っており、1月16日にホールが使えることに合わせて、つどい委員会が司会を行って行くことになりました。班長会・つどい委員会それぞれの活動ができてくると、合同で話し合うことの難しさも見えてきました。お互いの活動や全体についての話し合いが十分に行えないことです。そのため、それぞれが別の部屋で話し合った後、1ヶ所に集まって話し合ったことの共有を行う等の工夫をしました。

2月6日、成果発表会の日程や内容について話し合いました。「予定通り3月6日に行いたい」、「来られない人がいるから延期にしたい」、「活動報告会として行うのはどうか」、「成果発表会を行うことで一つの区切りになる」、などの意見が出ましたが、意見はまとまりませんでした。じっくりと考える時間もありましたが、その沈黙はみんなで見えたとしっかりと向き合ったということでもあるのではないかと思います。そうしたことと向き合うために話し合えたことは重要でした。

その後の活動でも話し合いを重ねて、最終的に3年間コースを継続して行ってきたことを成果発表会として、発表することになりました。

班長会ニュースについては、班長会・つどい委員会の活動が始まってすぐではなく途中から再開しました。合同で行っている間は合同でニュースを出すことなど、提案や話し合いができなかったため、今後、合同で活動する時にはそのこ

とを考えていくことも重要なことではないかとおもいます。

3 課題と展望

どうしてもその日の活動の振り返りだけで終わってしまうこともあります。班長会がつどいや各コースで話し合われたこと、また学級全体を考えると意識しながら、青年が自分たちの活動をつくっていくために何ができるかを担当者は考えながら活動することが重要ですが、コロナの影響で活動に制限がかかる中、活動部屋の人数制限や合宿の中止等、生涯学習センターや担当者会だけで決めざるを得ないことも多くなりました。しかし、その中でも成果発表会についての話し合いでは、現状と向き合いながら活動内容を定めることができました。また思うように活動ができなくなり、短い時間からの再開、つどい委員会と合同活動、活動時間の変更、班長会ニュースの再開等、新しいことや一から始めていくこともたくさんありましたが、班長会で話し合うことにより、こうした事態にも自治を大切に活動することができました。

つどい委員会

1. 集団の特徴

女性2名、男性4名で学級歴20年以上のベテランの青年で構成されています。

2. 活動のねらい

- ・学級全体の仲間意識を高める
- ・全体で話し合うべきことを適宜話しあう
- ・現状報告などを通して、中間の問題を全体に共有する

3. 活動の様子と評価

(1) 活動の様子

青年学級では、会の始めと終わりにつどい

4. 課題と展望

(1) 課題

① 担当者の体制について

担当者の体制が課題として挙げられます。今年度はつどい委員会を担当する担当者が1人だったため、お休みした際に他の担当者をお願いすることが何度かあり、来年度から担当者の体制を整える必要があると感じました。

② つどい委員のメンバーの募集

コロナの影響によって青年学級をお休みする青年もおり、毎回つどい委員会に参加する青年が少なく、新しいメンバーを募集してもいいのではないかと担当者からの意見が出たので、来年度に向けてつどい委員の青年と話し合いながら検討していきたいと思っています。

(2) 展望

① つどい委員会の再開

昨年度からコロナの影響でつどい委員会が開けず、またコロナのワクチン会場にホールがなかったことから、全体でのつどいができなかったのですが、ホールが使用できる学級日の前の班長会に参加する青年から「つどい委員会と班長会を分けて行うのはどうでしょうか」という提案がありました。つどい委員会に参加する青年からも「やりたいです」という意見があり、班長会の前につどい委員会を行うことができました。つどい委員会を開催することができたので、つどい委員を中心とした活動の運営ができたのがとてもよかったのではないのでしょうか。

② リクエストボックスの実施

つどい委員の青年から学級ソングのリクエストを集めるリクエストボックスを昨年度実施しました。つどい委員会で集まったリクエストを見て学級ソングを始めたつどい、帰りのつどいで学級ソングを決めました。

リクエストボックスを来年度も継続し、担当者間での引継ぎをできるような体制を整えていきたいと考えています。

第3章 考察

1. 2021年度の活動の取り組みについて

今年度の公民館学級は、「コンサートコース」、「まあるいゆめコース」、「ハッピーハッピーくらしコース」、「ものづくりコース」「さくらんぼスポーツ体作りコース」、「ゆめのつづきコース」の6コースに分かれて活動を行いました。新型コロナウイルスの影響が続き、学級活動に参加できない青年が今年度も多くいたため、2020年度と同様に、各コース2019年度のメンバーを継続する形で進められました。

また、今年度は昨年度実施予定であった若葉とそよ風のハーモニーコンサートが8月に延期されたこと、昨年度同様、社会情勢を見極めながら学級活動を実施したこともあり、わかそよ練習、1日の活動、午後のみ活動、参加人数が少ない場合には2コースを組み合わせたの活動を行うなど様々で、活動形態が不規則的でした。コース活動では、長期的な活動を実施することが難しく、単発的な活動が多くなってしまった点が反省点として挙げられました。しかし、先が見通せない中、どのような状況下においても、工夫をしながら学級活動を継続することができた点においては、成果であったと言えます。

2. 青年学級とは

今年度の半ば、長らく青年学級の活動にご尽力された大石さんがお亡くなりになり、コース活動で大石さんとの思い出を語る時間を設けたり、クリスマス会で追悼をするなど折に触れて、偲ぶ時間を設けました。思い出とともに青年学級の歴史を振り返ったり、改めて青年学級という

場について想いを共有していきました。青年学級では、自治活動やメンバー一人一人の意見を尊重することを大切にし、これまで活動を行ってきました。その中心には、「自分の人生を自分が主人公として生きる」という強い想いがあります。学級活動がスタートした当初と現在では、学級生も担当者も職員の方も異なり、学級歴なども様々な人が集まり、学級活動が行われてきました。このように移り変わるものがある中でも、変わることない想いを共有できたことで、改めて青年学級という場で何をしていきたいのかという点が明確化されたように思います。これは先がなかなか見通せず、計画的に活動を進めることが難しかった今年度の活動に大きな影響を与え、自分の想いを社会に発信する、形に残すというという青年たちの熱い想いととも、数少ない活動が充実していたことに繋がっていきました。これからも青年学級は、積み重ねてきた大切な想いと歴史を胸に、一つでも多くの言葉が社会に届くよう、発信を止めない場であり続けます。

3. 各コースの活動の成果

(1) コンサートコース

コンサートコースでは、生涯学習センター主催のセンター祭りへの参加に伴い、センター祭りの発表内容について中心となって考えたり、学級活動に参加できていない仲間に向けて、色紙や年賀状を作成して送付したりという活動を行いました。昨年度と同様に、新型コロナウイルスの影響から外部に発信する機会が少なかったですが、センター祭りの動画での発表は、公民館学級の活動や魅力について伝えたり、コロナ禍で

生活する中で何を感じているのかなどを伝える機会になりました。

また、他コースと合同で活動する際には、積極的に意見交換をし、今後の学級運営についてや学級活動に参加することができていない仲間に対して何ができるのかということを経験することができました。

(2) 楽器コース

楽器コースでは、学級活動に参加することができない仲間のことを思いながら、活動することに意識を向けました。特に繋がりを途絶えさせないためにどのような工夫ができるのかを丁寧に考え、新年には年賀状を作成し送付したり、学級ニュースを通してメッセージを伝えたりするというを行いました。「青年学級は変わらず活動を続け、仲間たちを待っている」という想いを届けることができました。

また、今年度の活動においては日々の生活や家族のこと、学級のことなど、例年よりも話し合いをする時間を多くとることができ、一人一人の想いを共有でき、尊重できる有意義な時間になりました。

(3) ものづくりコース

ものづくりコースでは、芹が谷公園で紅葉を見たり、クリスマスツリーの飾り作りや貼り絵の制作などを行いました。少ないコース活動の中ではありましたが、季節を意識した作品の制作を意識して活動することができました。また自分の好きなこと、日常の思い出などをメンバーが描き残しているところも見られ、好き、嬉しい、楽しい、大切などの気持ちを絵に投影し、証として残していることが伝わってくる活動になりました。

来年度の活動については、青年たちの話し合いの中で「ものづくりのみにとどまらず、外出などもしていきたい」との意見が多く出ました。外出先でのことを作品作りに投影する、外出先で集めた材料を活用するなどの工夫を凝らし、幅広い活動が行えるようにしていくことが見えてきました。

(4) 暮らしコース

暮らしコースでは、青年学級のこれからの活動について、青年学級という場の大切さとコロナ禍での心のよりどころについてなど話し合いを中心に行いながら、学級活動に参加できない仲間に向けてメッセージカードの作成も行いました。メッセージカードの作成については、ベルや靴下、サンタ帽の形に紙を切り、他コースにもメッセージカードの記入を依頼するなど、コース内だけではなく学級全体で作成することができました。

常に仲間のことを考えながら活動することができたことで、改めて青年学級という場所と仲間の位置づけを確認することに繋がりました。心の中で思うことでとどまらず、他コースへのカード記入の依頼、成果発表会で作文にして発表するなどコース活動の一環として実行することができました。

(5) 健康コース

健康コースでは、ボッチャ投げ、芹が谷公園でのスポーツを行ったり、近隣のウォーキングなどの活動を行いました。紅葉の季節に行った高ヶ坂ウォーキングでは、1万歩程度歩き、紅葉している景色を楽しみながら、落ち葉を踏んで歩くなど季節を感じる活動になりました。

また、コロナの感染状況からなかなか活動に参加することができなかったメンバーが、12月のコロナ感染者数が緩やかになった時期には、クリスマス会と大和ゆとりの森、綾瀬スポーツ公園の2つの公園を合わせた広い公園への外出活動には参加をすることができました。外出活動を通して、前方を歩くメンバーが後方を歩くメンバーを気かけ、様子を見ながら行動する姿が見られ、昨年度から引き続き仲間意識を感じながらの活動となりました。

(6) 劇ミュージカルコース

劇ミュージカルコースでは、話し合いを中心にミュージカルの歌詞やストーリーを作りました。コロナウィルスの感染状況に左右され、活動形態も不安定さがあり、長期的に1つの作品づくりを目指していく本コースでは、活動のゴールをどこに置くのかなど、様々な点で非常に難しさがありました。しかしコロナ禍での想いを何らかの形にして残したいという青年たちの強い想いがあり、新曲こそ今年度は生まれることがありませんでしたが、歌詞やストーリーとして残すことができました。

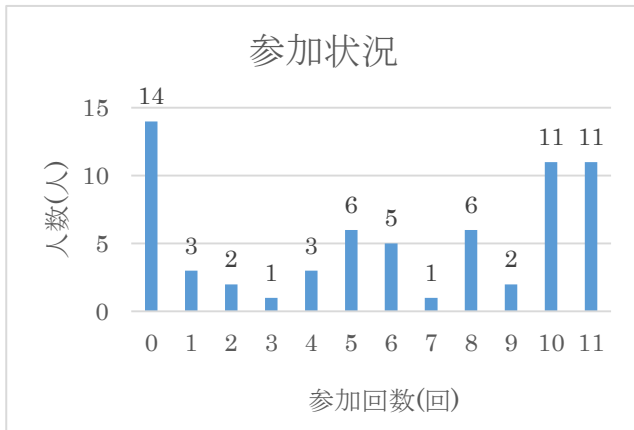
現在の社会問題について触れ、作品として想いを形にできた点は良かった点ですが、今年度は話し合いの活動が多く活動内容の幅が狭まってしまうということも見えてきました。日常的に学級ソングを歌う活動を行ったり、既成のストーリーを活用したり、またメンバーから提案されていたお菓子作りなどの調理活動なども取り入れながら、単発的な活動になった際に、より充実した活動になるよう考えていく必要があると分かりました。

4. 今年度実施した行事について

今年度の学級活動では、開級式とクリスマス会、センター祭りへの参加、成果発表会の4つを実施することができました。開級式については、オンラインで繋げひかり学級と合同で開級式を行うという初の試みをしました。クリスマス会については感染状況なども考慮し、例年行われていたプレゼント交換は実施することができませんでしたが、公民館7階のホールにて全員が集まる形で実施することができました。生涯学習センターが行うセンター祭りについては、今年度も動画での参加となりました。コンサートコースのメンバーが発表構成・セリフを担当し、「わたしのきもちをつたえたい」を学級の紹介とともに発表しました。また成果発表会については、成果発表会を行うかどうかという点から話し合いを重ねていくことになりました。まだまだコロナウィルスの状況も落ち着かず、参加できない人のことを考えるとどのようにすべきなのかという判断を迫られる中で、やはり一つの区切りをつける必要があるという意見が出て、成果発表会を行いました。参加ができなかった人にとっても、青年学級が続けられているという現状があることが希望につながったのではないかと思います。

5. コロナ禍における学級活動への参加状況について

2021年度もコロナウィルスの影響から、学級活動に参加することが難しい青年が多くいました。わかそよの練習期間を除き、9月から3月の成果発表会までの11回分の学級活動において、参加状況をまとめました。結果は以下の通りです。



学級の併用、コロナウィルスの感染対策を講じながらの活動を実施し、新たな要素を取り入れての学級活動は行われていますが、今年度は活動の連続性や継続性において課題が残ったため、この点を踏まえて、コロナ前後の活動内容を融合させ、更なる発展的な活動を行っていきけるように、活動内容の見直しが必要です。

学級生65名中、一度も活動に参加することができなかった人が14名いました。次いで多かったのは10回参加できた人、11回の活動すべて参加することができた人で、それぞれ11人ずつでした。これらの結果を踏まえると、参加できた人、できなかった人の差が大きいことが分かります。

来年度も感染状況を見ながら、活動を実施していくこととなりますが、活動に参加することができない人たちに何ができるのか、考え続けることが引き続き求められます。

6. 今後の展望について

2021年度の活動は2名の新入学生級生を迎えてスタートしました。2021年度末で1名の学級生が公民館学級からひかり学級へ移るほか、2022年度も新入学生級生2名が増えることになりました。学級生が増え、学級活動に新たな風が吹いたり、より一層盛り上がりが見られたりしていく中で、担当者スタッフは例年減少傾向が続いています。2022年度は公民館学級の担当者体制も非常に厳しいことが予想され、このような背景からも学級という集団を形成していく上で、新たな取り組みが求められています。

活動内容においても昨年からはじめたオンライン

